

令和7年度 東北そば研究会 事例紹介

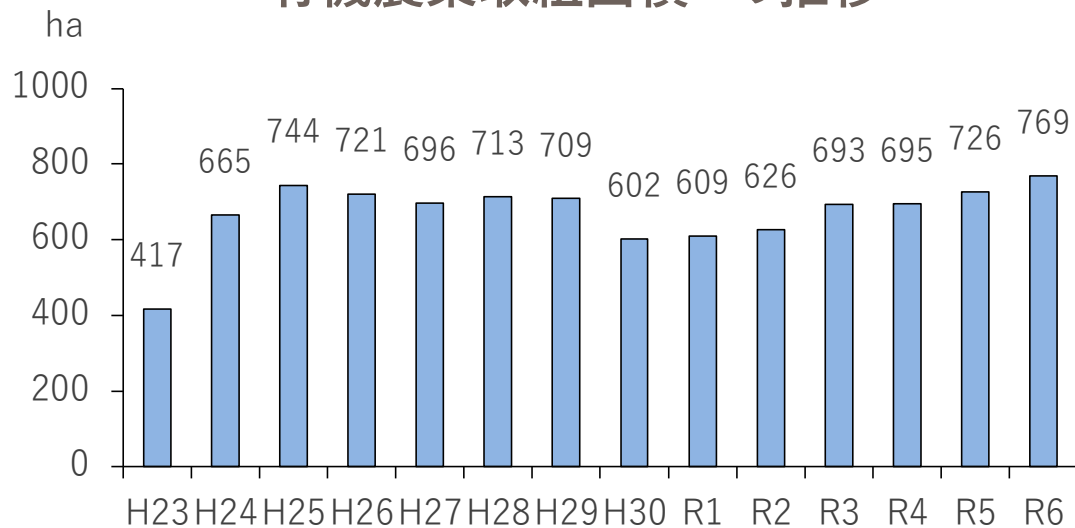
山形県西川町における有機栽培そばの 増収に向けた取組について



山形県村山総合支庁西村山農業技術普及課

山形県における有機農業の取組状況

山形県における 有機農業取組面積※の推移



山形県の有機農業の取組面積※は
令和6年に769haとなっており、微増傾向

「やまがた環境保全型農業推進計画」 の推進計画及び目標

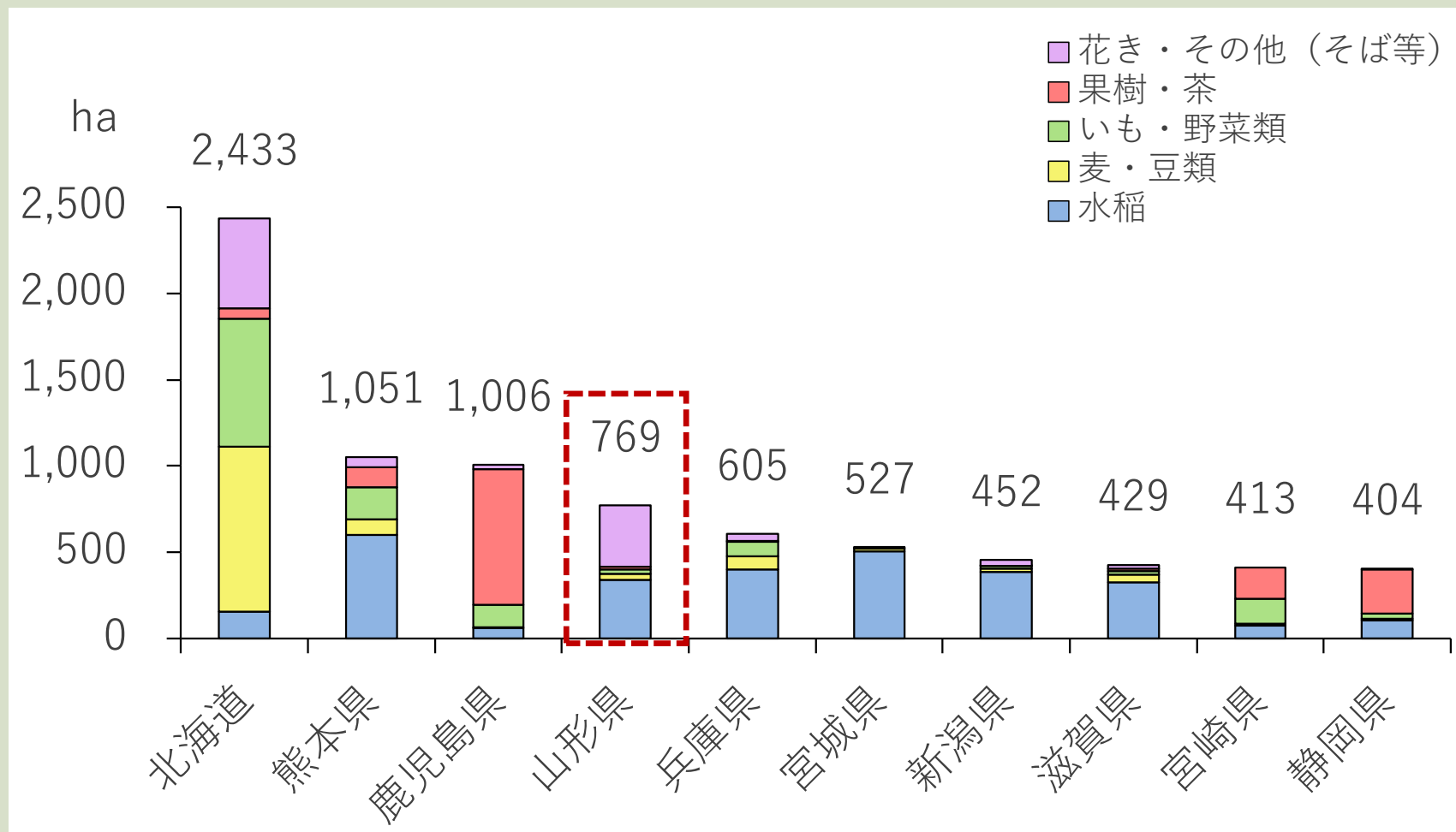
目標指数	計画時 (R5)	現状 (R6)	目標 (R10)
有機農業取組 面積※割合(%)	0.64	0.68	0.90
有機JAS認証 農家数(経営体)	129	131	200

※環境保全型農業直接支払交付金における実績面積

山形県では、環境負荷を軽減し持続可能な農業を実現するため
有機農業の拡大に向けた施策を推進

山形県における有機農業の取組状況

山形県の有機農業の取組面積※は**全国第4位**
取組作物は、**水稲・そば**が多い

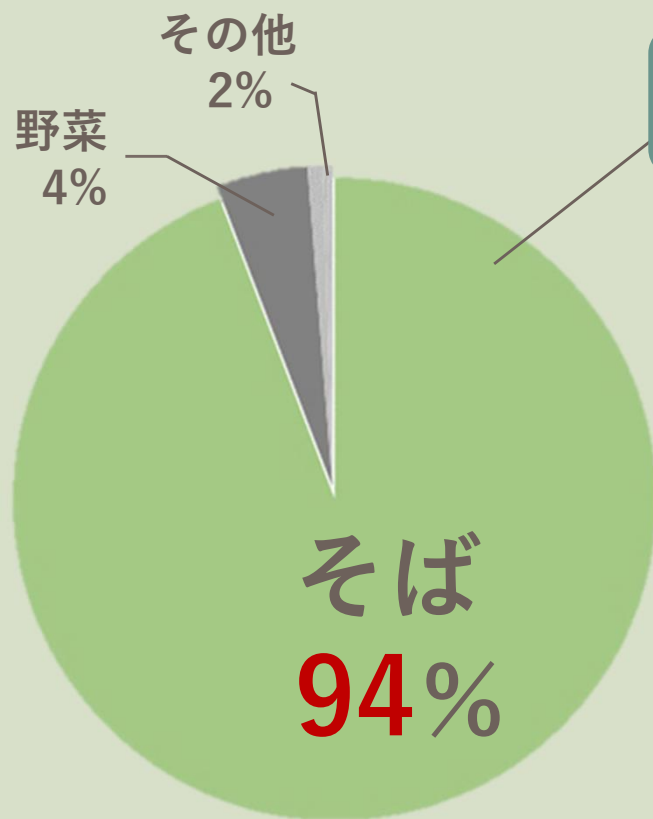


上位10県有機農業取組面積(令和6年)※

※環境保全型農業直接支払交付金における実績面積

西川町におけるそば栽培の概要

中山間地である西川町で約90haの作付け



水稲からそばに、年々面積増加



西川町の水田転換畑における作付け品目(R5)

耕作放棄地を増やすわけにはいかない!!

生産組合でも、山間部の農地を守る最後の砦として認識

西川町におけるそば栽培の現状・課題

01

- ◇ ほぼ全面積が有機農業による栽培
- ◇ 施肥過少などが原因で県内平均より収量が低い

02

- ◇ 西川町内の製麺業者からの引合いが強く、高値で買取り
- ◇ 地元産そばの需要は高いが、需要に応じた生産量を確保できていない



有機農業で栽培されたそばの収量向上が課題

西川町におけるそば栽培の現状・課題

03

- ◇西川町内には大規模な畜産法人があり、牛ふん堆肥を製造・販売
- ◇生産量は年間約1,500tほどあり、町内外に良質で安価な堆肥を広く販売しているが、堆肥の在庫が滞留している状況
- ◇堆肥は周年で生産されるため、畜産法人としては春の需要期に加え、夏～秋に販売できると望ましい



西川町産堆肥の町内利用はわずか3割に留まっている…

西川町のそば栽培における現状・課題

1

そばの収量が低い

2

需要に見合う供給量を生産できていない

3

地元畜産法人の堆肥利用率が低い

3つの課題をまとめて解決できないか…？



地元畜産法人の牛ふん堆肥を活用した有機栽培のそばの収量向上の取組を検討

堆肥施用による多収技術の実証(実証概要)

牛ふんもみ殻堆肥による有機栽培多収技術の実証(R6)

耕種概要

品種 : 最上早生

排水対策 : 額縁明渠、サブソイラ

播種期 : 8月9日

基肥 : 発酵鶏ふん (N-P-K:2.7-3.5-2.5kg/10a)

(春施用) 牛ふんもみ殻堆肥 (N-P-K:0.6-0.9-1.2kg/10a)



区構成

堆肥 1 t 区 : 発酵鶏ふん 45kg + **牛ふん堆肥 1 t**

堆肥 2 t 区 : 発酵鶏ふん 45kg + **牛ふん堆肥 2 t**

対照区 : 発酵鶏ふん 45kg

堆肥施用による多収技術の実証(結果)

収量・品質(R6)

区名	全重 (kg/10a)	子実重 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/l)	外観品質 (検査等級)
堆肥 1 t区	330	103	32.4	624	2等
堆肥 2 t区	325	91	31.2	616	2等
対照区	308	67	29.4	579	2等

- ◇堆肥施用量による苗立ち本数、
開花期・成熟期の生育(草丈)に大きな差は見られなかった
- ◇堆肥施用により子実重は対照区比136~154%に増加
- ◇オペレーターは刈取り時点で収量性の違いを実感

堆肥施用による多収技術の実証

実証圃を会場に栽培研修会を開催(R7)



- ◇堆肥施用による多収技術に興味を示す生産者が多く、生育の違いを確認していた
- ◇堆肥施用による生育向上や増収効果を研修会で周知している

堆肥施用による多収技術の実証

- ◇ 堆肥の春施用は、水稲など他品目との作業競合が生じる
⇒ **秋施用(そば収穫後)**についても検討(R8)
- ◇ 秋施用で増収効果が確認できれば、
生産者によって、**春施用・秋施用を選択可能に**
⇒ 堆肥の秋の販売量増加が見込める
- ◇ 生産者の作業競合に合わせた散布時期のメニュー化を目指す

堆肥秋施用の実証(R7年秋)




R8年度に生育・収量調査予定



有機物資源の活用促進の課題(現状)

堆肥施用により収量向上は見込まれるが…

そば圃場で堆肥利用が進まない

そば生産者 
ペレットのような
粒状であれば
ブロードキャスタで
散布しやすい…

そば生産者が堆肥散布機械を所有していない

堆肥を散布できる環境づくりが必要

畜産法人 
圃場までの
堆肥運搬は可能、
散布は不可

現在、町役場・生産者と共に協議進行中

有機物資源の活用促進の課題(解決に向けて)

取組状況

堆肥散布面積拡大に向けて
町役場・普及課・生産者との打合せを実施
(R7年12月)



今後の展開(散布体制・検討中)

畜産法人が
圃場の指定位置
に堆肥を運搬



バケットマニア
で、生産者自らが
堆肥を散布



積込バケットマニア
(出典：株式会社デリカ)

散布機械は
町が購入・整備し
利用者に
安く貸し出す

R8年は試験的に
1台導入して
堆肥散布の
実演会を開催し
生産者に周知予定

今後の展開

堆肥散布面積を拡大することで

✓ 西川町内の堆肥利用率向上

✓ 有機栽培のそばの収量向上

✓ 地元製麺業者への安定供給



地域内資源を活用した食の連携による収益向上を実現
(そば生産者・畜産法人・食産業)

関係機関が連携して、「有機の里」西川町へ



ありがとうございました